

水を大切にすゝる気持ち

夏休みのある日、私は家族で十津川村にある、日本一大きな「谷瀬のつり橋」を訪れた。山の中を車で走っていると、道沿いに大きな川が流れていた。その川は、水の流れがおだやかで、エメラルド色に輝いていた。釣りをしている人や、カヌーに乗っている人もいた。私は「こんなきれいな川初めて見た。」と感動した。

しかし、川沿いの道を進むと、その川は土砂と倒れた大木で私が見た美しさを失っていた。これは二〇一一年に和歌山県と十津川村で起きた土砂災害によるものだった。私はその恐ろしさを目のあたりにして、驚いたと同時にショックを受け、このままではいけない、あの美しさを取り戻してほしいと強く思った。そして、私たちに出来ることは何か考えてみることにした。

天理市立福住中学校 三年

岡西 紗知

まずは自分の住んでいる地域の身近なことから探そうと思い、水道工事の仕事をしている父に話を聞いた。昔は、井戸や川の水を使っていたので、その水だけが頼りだった。私の祖父や祖母も、水がなくなつては困るので大切に大切に使っていたそうだ。そのため色々な工夫と知恵があつた。台風などの災害でパイプが折れてしまつたり、水がつまりなように、こまめに山のそうじをしたり、一年に一・二回、井戸の水をぬいて井戸をきれいにそうじをしたりする。そうすると水がわきやすくなるそうだ。そして、洗たくや食器洗いはみんな、水を流しながらではなく、ためて洗っていたそうだ。

でも今の時代は、蛇口をひねれば水はいくらでも出てくる。私も十四年間生きて、水に困ったことなどなかった。父はこう言った。

「昔の人に比べたら、今の人は、水を大切に
する気持ちがうすれてきてるんちゃうかな。」
と。その言葉を聞いた時、自分の生活が頭に
浮かんだ。私たちにとって、いつでも水道か
ら水が出てくることは当たり前で、水に困る
こともほとんどない。また、水による被害も
少ない。私は生活の中で水をむだ遣いしてい
ることがたくさんあるのではないだろうか。
手を洗う時、お風呂に入る時、水を大切に使
っているだろうか。これから先、水に困る日
が来るかもしれない。それが明日かもしれない。
だから今、私たちの生活を見直すべきだ
と私は思う。

私たちにできることはたくさんある。例え
ば、手を洗う時、一度水を止めて、出しっぱ
なしにしないようにする。お風呂で体を流す
時、シャワーではなく、湯船のお湯を使う。
洗剤などを川に流さない。ポイ捨てをしない。
一人でも多くの人が「水を大切にす」とい
う気持ちを持ち、行動に移していけば、日本
の美しい自然も水という貴重な資源も守るこ
とができると思う。
私は以前、まだ私より小さい一人の女の子

が、水たまりの水を手ですくい飲んでいる写
真を見て、衝撃を受けた。世界と水の姿を目
にした時だった。水に恵まれている私たちか
らすれば、水たまりの水を飲むことなんて信
じられないことだった。その女の子はどんな
気持ちなんだろうと考えてみると、とても悲
しくなった。でも「あの子かわいそう。」だけ
で終わらせてはいけない。世界には水の問題
で困っている人がたくさんいる。これが現実
だ。私たちには関係ないことではない。その
世界の姿も知って水の大切さも分かるだろう
し、大切にしようという気持ちも強くなった
いくだろうと思う。

私も、十津川の川や父の話、一枚の写真を
通して、まずは「水を大切にす」という気
持ちを持ってみようと思った。